

聖書箇所Ⅰ：創世記2章1-3節

- 1 こうして、天と地とそのすべての万象が完成された。
- 2 それで神は、第7日目に、なさっていたわざの完成を告げられた。すなわち、第7日目、なさっていたすべての業をやすまれた。
- 3 神はその第7日目を祝福し、この日を聖であるとされた。それは、その日に、神がなさっていたすべての創造のわざを休まれたからである。

聖書箇所Ⅱ：マタイ6章3-4節

だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

聖書箇所Ⅲ：第一ヨハネ2章1節(後半)

私たちには、御父の御前で弁護してくださる方がいます。それは、義なるイエス・キリストです。

メッセージ骨子：

<序論> 疲れがとれない、休みたい、、、、と思いながら生活している人がたくさんいます。若いころは休日など放っておいたら昼過ぎまで眠れたけど、今の私は夜何時に寝ても、朝同じ時間に目が覚めてしまいます。また睡眠不足を解消しようとしても、二度寝ができないのは、まさに年を取った証拠でしょう。休息は、僕らが神様から頂く宝物のひとつですが、本当の休息、あるべき休息の姿とは何でしょうか。

<ポイント1> 「週一の礼拝が休息」

創世記1章で天地を創造された神は、2章に入り「休まれた」とあります。これは完成を告げて、ご自分の創造のみ業を見つめられ、この「休み」を聖なる時間として取り分けられたのです。出エジプト記のマナの記述でも(16:16)6日間は降るが、7日目は降らず、安息日にマナをがんばって探し出ても何も見つからなかったとあります。一週間のなかで、神のためにとっておくべき時間を無視してがんばって働いても、祝福を受けず、いい結果はもたらさないということです。

<ポイント2> 「聖書と祈りが休息」

トルコに『明日できることは今日するな』ということわざがあります。これは、『今やるべきことと、あすでもよいことを見極めろ』という教えですが、日本人はその点不器用で、どうも心配の先取りをしてしまう傾向にあります。『明日のための心配は無用。明日のことは明日が心配する』(マタイ6:34)を、もし地で行くことができたなら、どれほど毎日が楽になるでしょう。実は私の場合、夜寝る前に頭(こうべ)を垂れて祈り、翌朝の聖書でその答えをもらう、これが今や『楽な毎日』を送らせていただくための秘訣、効果抜群の安眠剤となっています。

<ポイント3> 「final judgement の勝利が休息」

僕らクリスチャンは、これから死ぬまで犯すかもしれない無数の罪についても赦しを宣言していただいています。だから僕たちは、いちいち自分の細かい罪に落ち込む必要はない。ただ新たな罪に気づくたびに、悔い改めをすることで新たな力を得、成長できる。だから悔い改める。つまり私たちは死ぬまできざきざの階段を上り続けていくのです。先日ソチ行きを決めた羽生結弦(はにゅうゆうずる)のフィギュア国際大会のファイナルは見事でした。僕はそれが決まったあとで、その映像をVTRで見たのですが、見ている僕は余裕でした。それはすでに決まっているからです。僕たちの天国行きは、それと同じほどに確実なのです。天において、僕たちの罪を責めるサタンの攻撃を、義の弁護人たるイエス様がガードしてくださる(第一ヨハネ2:1)これが聖書の約束です。

<まとめ> 休息は『守り』によって得られるものだけではなく、神と人に仕え切った時、たとえどんなに疲れていても、心は安らかで力がみなぎっている。これこそがこの世で味わえる、『攻め』の休息、本当の休息である。このことを、この年末から年始にかけてカリフォルニアで開かれた Equippers Conference13 という集会の奉仕から学びました。5泊のうち、最初の2晩は、時差や相部屋の環境も原因し、まったく眠れませんでした。ぼろぼろになりながらも3日目の夜、ある兄弟のために真剣に祈ったことから急回復し、その日は熟睡。そして4日目、5日目の計4回の奉仕に全力投球できました。祈りをもって、もてるものを出し切ったときに与えられる充足感、これこそが、神が味われた7日目の休息、来るべき天国の前味、人生の real taste なのではないでしょうか。

以上